

海外安全対策情報

1 治安情勢

- (1) メキシコ公安省の発表では、グアナファト州（GTO）の2020年度第3四半期（2020年10月～12月）の犯罪発生認知総数は31,571件と、前期比（2020年7月～9月）3.7%増加した。いったん6月頃からはコロナの感染状況が良くなり経済活動が徐々に緩和されたものの、11月頃には再びコロナの感染状況が悪化し外出等が自粛されたために、殺人や強盗事件等の凶悪犯罪が減少傾向に至ったと史料される。そのため、故意殺人事件の認知件数については802件と前期比7.3%減少、車両強盗に関しては602件と前期0.8%微増、店舗・事務所強盗に関しては588件と前期比27.4%減少、家屋強盗に関しては82件と前期比22.6%減少している等、犯罪認知総数の数値は増加したものの殺人や強盗等の犯罪発生件数は減少傾向に転じた。
- (2) 8月に同州を拠点として活動していた主要犯罪組織サンタ・ロサ・デ・リマ・カルテル（CSRL）のリーダーであるエル・マロが逮捕され、その後、後継者となったエル・アスルが立て続けに逮捕されたことにより、GTO内の治安悪化の要因の一つであったCSRLの力も弱まり、一旦は情勢が落ち着くかと思われていたが、組織内のリーダーの座を奪い合う内部抗争や、CSRLの弱体化を狙いハリスコ州を拠点に活動しているハリスコ新世代カルテル（CJNG）が勢力拡大を目的にCSRL含め地元の麻薬販売グループとの抗争を激化させたことにより、2020年1年間の故意殺人件数は3,359件と前年比21.0%増加した。また、CSRLは主にケタロ州方面にあるセラヤ市やアパセオ市周辺を拠点として活動していることから、CJNGとの抗争に関わる影響がケタロ州にも出てきており、2020年の故意殺人事件数の増加（前年比2.2%増）や車両強盗（前年比19.2%増）が微増していることには注視が必要である。
- (3) GTOで発生している故意殺人事件の8割以上が麻薬やガソリン窃盗組織との抗争によるものと治安当局より報告を受けているため、不特定な人物を狙っての犯行ではないと認識している。しかしながら、治安当局やこれら犯罪組織同士の銃撃戦や銃を利用した殺人が頻繁に州内で発生するなか、銃の流れ弾や巻き込まれによる一般人の死傷事件が発生していることから、引き続き注意が必要である。
- (4) 更に、GTOでは故意殺人事件と同様に麻薬に関する事件が2018年8,739件に対して、2019年9,440件発生（全州2位）、2020年は14,932件と前年比58.1%増加するなど（全国1位）年々増加の傾向にある。また2020年の故意殺人事件発生数は3,359件と2018年から続けて増加していることから、背景には麻薬に関する事件が紐付いていることが推測される。
- (5) 特にレオン市の麻薬に関連する事件の認知件数に関しては、2019年は7,176件、2020年は12,334件と増加しており、且つこの数値はGTO全体で発生した2020年の麻薬売買取り締まり件数（14,932件）の82.6%を占めている。更にレオン市の故意殺人件数は633件と前年比39.1%（455件）増加しており、GTO全体の18.8%を占めており、麻薬に関連する故意殺人事件数が非常に多いと判断される。

2 管轄地域内における一般犯罪の傾向

(1) グアナファト州（人口616万人）

レオン市やセラヤ市では拳銃を利用した故意殺人事件が増加傾向にあり、通行人が流れ弾に巻き込まれ死傷する事件も発生している。また、セラヤ市及びサラマンカ市周辺では銃器を利用した車両強盗や輸送車両強盗が引き続き増加傾向にある。更に前年と比較して今年の空き巣事件の数値は減少したものの、2020年レオン市では1,181件、グアナファト市では463件、イラプアト市では354件と多く発生していることにも注意が必要である。

■ 2020年10月～12月（前期比率）

■ 2020年（前年比率）

犯罪認知件総数 31,571件（前期比 3.7%増） / 122,870件（前年比10.7%減）

ア 故意殺人	802件（前期比 7.3%減）	3,359件（前年比21.0%増）
イ 故意傷害	2,858件（前期比 6.2%増）	11,127件（前年比23.2%減）
ウ 車両強盗	602件（前期比 0.8%増）	2,515件（前年比15.0%増）
エ 住居強盗	82件（前期比22.6%減）	378件（前年比 3.8%減）
オ 店舗・事務所強盗	588件（前期比27.4%減）	2,958件（前年比17.7%減）
カ 路上強盗	20件（前期比20.0%減）	104件（前年比13.3%減）
キ 空き巣	972件（前期比 6.9%増）	1,770件（前年比24.7%減）
ク 店舗・事務所荒らし	732件（前年比 9.8%減）	3,341件（前年比 9.7%減）
ケ 脅迫・恐喝	2,082件（前期比 1.3%減）	8,539件（前年比17.3%減）
コ 麻薬売買	4,238件（前期比 7.9%増）	14,932件（前年比58.1%増）

(2) アグアスカリエンテス州（人口142万人）

前年に引き続き2020年の全体的な治安は落ち着いており殺人や強盗等の凶悪事件は少ない。しかしながら、アグアスカリエンテス市では空き巣が1,511件発生、車上荒らし（又は車両盗難）は906件と多く発生している傾向にあるので注意が必要である。

■ 2020年10月～12月（前期比率）

■ 2020年（前年比率）

犯罪認知総数 8,029件（前期比 4.3%減） / 33,626件（前年比12.5%減）

ア 故意殺人	12件（前期比33.3%減）	73件（前年比19.7%減）
イ 故意傷害	772件（前期比12.8%減）	3,507件（前年比 7.4%減）
ウ 車両強盗	17件（前期比30.7%増）	61件（前年比18.6%減）
エ 店舗・事務所強盗	60件（前期比42.8%増）	207件（前年比 8.4%減）
オ 路上強盗	102件（前期比24.4%減）	510件（前年比18.6%減）
カ 空き巣	643件（前期比12.4%増）	2,390件（前年比13.1%減）
キ 店舗・事務所荒らし	427件（前期比 2.2%減）	1,731件（前年比12.8%減）
ク 脅迫・恐喝	667件（前期比13.8%減）	3,080件（前年比 8.8%減）
ケ 麻薬売買	143件（前期比55.3%減）	2,099件（前年比 4.8%減）

(3) ハリスコ州（人口834万人）

コロナ禍により生活の自粛が厳しく制限されていたこともあり、2020年の犯罪認知件数は減少に至ったが、銃器等を利用した凶悪な故意殺人がグアダラハラ市を中心に360件、トラケパケ市288件、サポパン市169件と多く発生している。また、店舗・事務所強盗や路上強盗は、前年と比較して減少はしているものの、他の州と比較しても発生件数は非常に高い。更に、脅迫・恐喝事件も前年と比較して数値的には、それほど減少していないため注意が必要である。

■ 2020年10月～12月（前期比率）

■ 2020年（前年比率）

犯罪認知総数 31,678件（前期比 1.2%減） / 126,601件（前年比19.1%減）

ア 故意殺人	429件（前期比 0.7%増）	1,751件（前年比13.4%減）
イ 故意傷害	1,901件（前期比 3.7%増）	7,495件（前年比16.0%減）
ウ 車両強盗	906件（前期比21.1%減）	4,670件（前年比29.5%減）
エ 店舗・事務所強盗	1,426件（前期比14.5%減）	6,483件（前年比29.1%減）
オ 路上強盗	1,828件（前期比 3.9%減）	7,362件（前年比20.6%減）
カ 空き巣	1,144件（前期比 2.5%増）	4,313件（前年比31.8%減）

キ 店舗・事務所荒らし	890件 (前期比 9.5%減)	3,642件 (前年比35.9%減)
ク 脅迫・恐喝	2,373件 (前期比 2.5%減)	9,840件 (前年比10.8%減)
ケ 麻薬売買	284件 (前期比 3.6%増)	1,067件 (前年比38.4%減)

(4) ケレタロ州 (人口236万人)

前年同様に2020年の治安は安定化しているが、グアナファト州で発生している犯罪カルテル組織同士の抗争等の影響を受けてか、殺人や車両強盗、店舗強盗が微増している。特に車両強盗は7月から年末にかけて増加傾向にあり、ケレタロ市365件(前年比20.0%増)、エルマルケス市79件(前年比83.7%増)となった。また、車上荒らし(又は車両盗難)も減少傾向にあるが、ケレタロ市内だけでも1,723件発生しており注意が必要。更に空き巣に関してもケレタロ市で1,332件、サンファン・デル・リオ市で408件と他の州や市と比べても比較的発生件数が多いため注意が必要である。

■ 2020年10月～12月 (前期比率)

■ 2020年 (前年比率)

犯罪認知総数	13,240件 (前期比 1.8%減) /	52,026件 (前年比14.0%減)
ア 故意殺人	46件 (前期比 6.1%減)	181件 (前年比 2.2%増)
イ 故意傷害	1,093件 (前期比15.2%増)	4,797件 (前年比15.6%減)
ウ 車両強盗	152件 (前期比 7.8%減)	612件 (前年比19.3%増)
エ 店舗・事務所強盗	275件 (前期比12.2%増)	939件 (前年比10.6%増)
オ 路上強盗	187件 (前期比 6.0%減)	797件 (前年比13.0%減)
カ 空き巣	671件 (前期比 4.1%増)	2,605件 (前年比21.2%減)
キ 店舗・事務所荒らし	617件 (前期比 2.8%増)	2,257件 (前年比10.7%減)
ク 脅迫・恐喝	876件 (前期比12.8%減)	3,723件 (前年比12.2%減)
ケ 麻薬売買	276件 (前期比 0.7%増)	1,134件 (前年比28.1%減)

(5) サンルイスポトシ州 (282万人)

2020年も前年同様に治安は安定しているが、故意殺人事件は前年比37.0%増となり、引き続き治安情勢の変化に注視が必要。また、車両強盗が増加傾向にあり、サンルイスポトシ市(177件)を中心に発生しているが、ソレダー・デ・グラシアーノ・サンチェス市(80件)では前年比70.2%と急増している。

■ 2020年10月～12月 (前期比率)

■ 2020年 (前年比率)

犯罪認知総数	11,682件 (前期比 2.1%減) /	45,808件 (前年比12.3%減)
ア 故意殺人	158件 (前期比18.5%減)	621件 (前年比37.0%増)
イ 故意傷害	874件 (前期比10.1%減)	3,740件 (前年比19.7%減)
ウ 車両強盗	98件 (前期比38.0%増)	316件 (前年比23.9%増)
エ 店舗・事務所強盗	238件 (前期比 3.6%減)	873件 (前年比 7.7%増)
オ 路上強盗	167件 (前期比11.3%増)	639件 (前年比20.2%減)
カ 空き巣	277件 (前期比18.0%増)	1,127件 (前年比31.7%減)
キ 店舗・事務所荒らし	169件 (前期比 6.1%減)	645件 (前年比24.3%減)
ク 脅迫・恐喝	693件 (前期比13.4%減)	2,880件 (前年比16.0%減)
ケ 麻薬売買	273件 (前期比28.3%減)	1,357件 (前年比74.2%減)

(6) サカテカス州 (162万人)

2020年の犯罪認知総数はコロナ禍の影響があったにもかかわらず、5.0%しか減少していなかったことから治安状況は決して安定しているとは言えず、更には増加傾向にある故意殺人や車両強盗は、犯罪

カルテルが関わっていることが多いことから、これら犯罪カルテルの活動が活発化してきている可能性も否めないため治安情勢には注視が必要である。

■ 2020年10月～12月（前期比率）

■ 2020年（前年比率）

犯罪認知総数	5, 459件（前期比 5.8%減）	／	22, 739件（前年比 5.0%減）
ア 故意殺人	245件（前期比20.6%増）		789件（前年比54.7%増）
イ 故意傷害	400件（前期比19.3%減）		1, 866件（前年比 3.3%減）
ウ 車両強盗	109件（前期比11.2%増）		370件（前年比11.1%増）
エ 店舗・事務所強盗	6件（前期比62.5%減）		66件（前年比52.8%減）
オ 路上強盗	1件（前期比80.0%減）		17件（前年比62.2%減）
カ 空き巣	69件（前期比23.2%増）		262件（前年比40.5%減）
キ 店舗・事務所荒らし	24件（前期比50.0%増）		89件（前年比31.5%減）
ク 脅迫・恐喝	257件（前期比15.4%減）		1, 179件（前年比 増減なし）
ケ 麻薬売買	64件（前期比22.8%減）		302件（前年比 8.4%減）

3 安全に関わる諸問題及び対応策

- (1) グアナファト州内では、麻薬カルテルや犯罪組織同士の抗争が激化しており、これらが関与した発砲事件や殺人事件、警察官を直接狙った襲撃事件も発生している。これら組織や麻薬に関わることは、殺害のターゲットにもなりかねないため、夜間の外出やそれら組織関係者が集まるようなバーやディスコ等の出入りについて極力避けると共に、違法薬物には一切かかわらないこと。また夜間を問わず一般市民が利用する公共の場所においても、発砲事件に遭遇する可能性も十分に考えられるため、銃声が聞こえたら身を低くしてその場を離れる等、常にその時々の方策を意識し、普段から周囲の変化に敏感になれるよう注意が必要である。
- (2) 次に、銃器を利用した強盗も増加している。この様な事件に巻き込まれないためにも、発出される領事メール等を参考に、行動の制限（犯罪が多発する時間帯の外出制限、事件多発地域への通行を避ける等）を行うことで、被害に遭うリスクを下げることが重要である。また、銃器を利用した車両強盗では、メキシコ人被害者が抵抗したために射殺される死傷事件が少なからず発生している。万が一にも事件に遭遇した際は、抵抗せず犯人の指示に従うことが重要である。
- (3) そして、コンビニエンス・ストアやレストランの駐車場における車上荒らしでは、引き続き在留邦人が巻き込まれる事案が発生しており、車両を駐車する店の立地や利用する時間帯に注意するとともに、車両を離れる際は必ず貴重品は携行することに注意する。
- (4) 最後に、バヒオ地区内では空き巣被害の上昇が目立つ。万が一にも空き巣被害を確認した際には、まずは911番へ通報し警察官同行のもと住居内の確認を行うこと。犯人が住居内に残っていた場合、拳銃等の武器を所持している可能性が非常に高いことから、住居区の警備員の同行であっても必ず警察官の到着を待つこと。

4 その他

事件事故に遭った際は必ず911番通報（警察、消防、救急への緊急通報番号）を行うよう心掛けること。また、犯人の逮捕を希望する場合は、必ず検察局（Ministerio Publico）に被害届を提出する。被害届を提出しない場合は、発生した犯罪が事件化されないため、犯罪者が野放しとなる。

同時に管轄する大使館及び総領事館にも被害報告をしていただければ、当地の邦人の皆様への的確な治安対策をアドバイスすることができると共に、当地治安当局に対して事件の再発防止等を当館から訴えることができるためご協力いただきたい。

以上